

## インフォーマルミーティング

「留学生・外国人研究者にとって居心地のよい物理学会とは」  
(理事会企画) とその後の理事会对応についての報告<sup>†</sup>

日本物理学会には、一体何人の外国人会員がいるかご存じだろうか。日本語をあまり話せない彼らは、学会をどのように感じているか、ご存じだろうか。彼らが日本物理学会をあまり居心地のよい場所とは感じていないだろうことは、多くの日本人会員がうすうす気づいているだろう。しかし、彼らはマイノリティーであるがゆえに声もあげられず、具体的な対応策はほとんど講じられてこなかった。

2022年度から男女共同参画推進委員会は、ダイバーシティ推進委員会と名前を変え、あらたなミッションとして、外国人会員問題について考えることが加わった。しかしながら、委員会内に当事者がいないので、まずは直接外国人会員の声を聞くことが必要と思われた。そこで、2023年年次大会と2024年春季大会の2回にわたって、理事会企画として大会初の英語でのインフォーマルミーティング(IFM)を開催し、留学生やポスドク、外国人教員、さらには留学生を受け入れている日本人教員にも話をしてもらい、さまざまな意見や提案を聞く機会を持った。

東北大学での2023年秋の年次大会では、昼休みにIFMを開催し、会長の挨拶の後、博士課程学生(中国出身)、私立大学助教(インドネシア出身)、国立大教授(日本人)の3名に話をしてもらった。日本人と外国人合わせて55人の参加者があり、3名の講演の後にもさまざまな意見が出された。オンライン大会となった2024年春季大会では、参加しやすいよう一般セッション終了後の夕方に開催し、数理物理専門の私立大准教授(ドイツ出身)

と物性実験の国立大准教授(インドネシア出身)、素粒子理論の外国人ポスドク(米国出身)から日本での研究生活で感じることなどを話してもらい、一般聴衆も交えて活発な意見交換があった。

2回のIFMに参加した外国人会員は延べ50人程度だが、学会員全体の外国人比率は2%(約300人)なので、外国人のIFM参加率はかなり高いと言える。それだけ、彼らの関心が高く、学会に対して言いたいことがたくさんある、ということではないだろうか。短い時間内で、すべての意見を拾い上げることができなかったため、それぞれのIFMの前後にアンケート調査も行い、延べ33人の外国人会員から回答を得た。

このアンケート調査結果と2回のIFMでの意見を整理し、提案のリストを表1にまとめた。これについて、4月の理事会で議論が行われ、対応策が検討された。すぐに対応可能なことと、少し時間をかけて検討が必要なものがあるが、いずれにしてもほぼすべての要望に対して、前向きなアクションがとられることとなった。今後の推移を見守りたい。

このたびのIFMの企画を担当してわかったことは、やはり当事者に聞いてみないとわからない、ということである。もちろん調査する前から予想できていたこともあるが、言われて初めて気づいた不合理や不公平もある。その意味で、今後も継続的に外国人会員の声を聞く仕組みを作っておくことの必要性を強く感じた。

(文責：田島節子  
(ダイバーシティ推進委員会委員)、  
山本文子(ダイバーシティ担当理事)、  
2024年5月18日原稿受付)

表1 外国人会員からの要望に基づいた提案とそれに対する理事会对応。

項目	要望に基づいた提案	理事会对応(2024年4月現在)
大会関係	1 発表スライドやポスターの英語化の推進	会員・領域委員会への協力の呼びかけ
	2 学会ウェブページの英語ページ改善(日本語ページと同等の情報提供を)	対応中
	3 概要の英語版作成	会員・領域委員会への呼びかけ
	4 英語セッション・シンポジウムの増加	会員・領域委員会への呼びかけ
	5 外国人会員も座長候補として考慮	領域委員会で呼びかけ
	6 オンライン大会での同時通訳字幕機能の導入	2025年3月実施に向けて理事会で検討
広報・学会HP	7 同報メールの英語併記	対応済み
	8 HPの英語ページの充実化(特に人事公募、各種の賞、助成金、会合などの欠落情報の追加)	一部対応済み、改善継続
学会誌	9 会誌電子版の英語版作成(せめてアブストラクトだけでも、人事公募、賞、助成金、会合の情報なども重要)	広報担当理事および会誌編集委員会が検討予定
その他	10 物理用語英和辞典の作成(自動翻訳で正しい日本語訳が出てこないことへの対策)	物理学会150周年事業として計画予定
	11 発展途上国からの留学生が帰国した後、会員を継続するための補助	会計担当理事が検討予定
	12 大会のときの外国人会員のための懇親会など、相互交流の仕組み作り	大会担当理事が検討
	13 外国人会員のための「日本物理学会のガイドブック(あるいはウェブページ)」作成	大会担当理事が検討

<sup>†</sup> English version of this article is available at [https://www.jps.or.jp/activities/iinkai/dei/files/kaishi79-9\\_IFMe.pdf](https://www.jps.or.jp/activities/iinkai/dei/files/kaishi79-9_IFMe.pdf)